

第 4 回
「北方領土と私たち」作文コンクール
入賞作文集



(和風づくり体験 北方四島交流後継者訪問事業から)

北方領土返還要求京都府民会議
京都府北方領土教育者会議

目 次

1	発刊にあたって	-----	1
2	実施要項	-----	2
3	選考について	-----	3
4	入賞者一覧	-----	4
5	授賞式風景	-----	6
6	受賞作文	-----	7

最優秀賞

京都府知事賞	京都府立園部高等学校	奥 村 麻 衣
京都市長賞	京都市立嵯峨中学校	木 村 瑞 季

優秀賞

京都府教育委員会教育長賞	向日市立西ノ岡中学校	藤 木 志 帆
京都市教育委員会教育長賞	京都市立西京高等学校附属中学校	
		横 江 萌 乃
北方領土問題対策協会理事長賞	京都市立嵯峨中学校	栗 津 美 沙
北方領土問題対策協会理事長賞	綾部市立豊里中学校	西 谷 優 奈
北方領土返還要求京都府民会議会長賞	京都市立向島中学校	湯 澤 優 希
北方領土返還要求京都府民会議会長賞	宮津市立養老中学校	関 千 尋
京都新聞社賞	京都市立大枝中学校	川 山 芽 里
京都新聞社賞	亀岡市立高田中学校	中 川 勇 人
KBS京都賞	京都市立北野中学校	明 慶 大 地
KBS京都賞	南丹市立殿田中学校	出 田 翼

佳 作	京都市立嵯峨中学校	湯 口 優 奈
佳 作	京都市立嵯峨中学校	濱 本 明日美
佳 作	京都市立藤森中学校	齊 藤 泉
佳 作	京都市立大枝中学校	樹 山 七 海
佳 作	京都市立松尾中学校	斉 藤 瑞 月
佳 作	向日市立西ノ岡中学校	出 口 美 穂
佳 作	京丹波町立瑞穂中学校	谷 垣 ひかる
佳 作	綾部市立豊里中学校	平 方 沙 耶
佳 作	宮津市立養老中学校	関 彩 花

発刊にあたって

おかげさまでこの「北方領土と私たち」作文コンクールも今年度で第四回を迎えることができました。応募点数は昨年度よりやや減りましたが、それでも1200点以上の応募がありました。

第一回作文コンクールを実施いたしました平成一八年度当時は「北方領土に関する作文を生徒たちから募集する」と投げかけただけで多くの先生方から驚きと戸惑いの声があがっていました。今や応募の「常連校」も現れ、北方領土教育が校内の取組に確実に組み込まれている学校が出てきたことが伺えます。

もっとも、現実には一部の先生方が授業で取り上げられ、この作文を課題として扱われたりすることからはじまっていることでしょう。しかし、この作文コンクールを続けることで、大きく一つの力に結びつくと考えています。一つは作文を書いてくれた生徒自身がそれぞれこの問題と向き合い考えてくれたことです。作文コンクールですから上手に表現できていない人は選ばれないわけですが、それでも自分なりに考えてくれた、自分の字で「国後」「択捉」などと書き、その歴史的な背景を知ってくれたことの意味は大きいと思います。応募作品の中にも様々な切り口のものがありました。日本政府に対する意見や自分達の立場の再認識など、審査をしながらあらためて考えさせられるものも数多くありました。そんな生徒さんが今年も千人以上いてくれたのです。

もう一つはこうして入賞者が決まり表彰し学校に持ち帰られることで、学校全体や家庭に、場合によっては地域にも周知され、北方領土問題の重要性を啓発する大きな力になっていくということです。

このように北方領土問題についての学習が広がり、作文コンクールがさらに定着してきましたのは各学校のご理解とご協力のおかげです。あらためて感謝申し上げます。また、今年度から京都府ならびに京都市中学校校長会、京都市町村教育委員会連絡協議会にもご後援いただくことになりました。従前からご後援いただいております独立行政法人北方問題対策協会、京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都新聞社、KBS京都をはじめとする関係者の皆様にも重ねてお礼申し上げます。

時折テレビや新聞で報道される日口関係は必ずしも明るい展望のものばかりではありません。しかし、将来を担う中高生が時にこの問題と向き合い、考え、自分たちにできる一歩を踏みだしてくれることが、北方領土問題の解決に確実につながる道であると信じています。

今後とも関係の皆様方のご指導とご支援をお願い申し上げます。発刊の言葉といたします。

平成二十二年二月六日

北方領土返還要求京都府民会議

会長 栗田澄子

京都府北方領土教育者会議

会長 島本由紀

平成21年度

第4回「北方領土と私たち」作文コンクール実施要項

1 趣 旨

京都の中学生や高校生が、北方四島の現実に関心に向け、北方四島が歴史的な経過や国際法に照らして日本の固有の領土であることを正しく理解し、北方領土に対する関心を高めることを目的としてこの事業を実施する。

2 主 催

北方領土返還要求京都府民会議
京都府北方領土教育者会議

3 後 援

京都府・京都市・京都府教育委員会・京都市教育委員会
京都府中学校長会・京都市中学校長会
京都府市町村教育委員会連合会
(独立行政法人)北方領土問題対策協会
京都新聞社・KBS京都

3 テーマ

「北方領土と私たち」にかかわる内容であること(題名は自由)

4 募 集

- (1) 対 象 京都府内の中学校・高等学校に在学している者
- (2) 募集締切 平成21年12月10日(木)
- (3) 作品規定 原稿用紙(400字詰)3枚以内
- (4) 応募先 「北方領土と私たち」作文コンクール担当者

5 審 査

主催者において選定した審査員により審査

6 表 彰

(1) 賞の設定

- 最優秀賞** 2点・京都府知事賞・京都市長賞 各1点
- 優 秀 賞** 6点・京都府教育委員会教育長賞 1点
 - ・京都市教育委員会教育長賞 1点
 - ・北方領土問題対策協会理事長賞 2点
 - ・北方領土返還要求京都府民会議会長賞 2点
 - ・京都新聞社賞 2点
 - ・KBS京都賞 2点

入選・佳作 若干点

(2) 表彰式

平成22年2月上旬

(北方領土返還要求京都府民大会会場にて表彰予定)

第4回「北方領土と私たち」作文コンクールの選考について

1 応募の状況

応募校	20校	応募点数	1304点
-----	-----	------	-------

2 選考委員と選考基準

(1) 選考委員会の構成

氏名	所属・役職
栗田 澄子	北方領土返還要求京都府民会議会長
能登 英夫	北方領土返還要求京都府民会議事務局長
西村 英二	北方領土返還要求京都府民会議事務局次長
中西 和之	北方領土返還要求京都府民会議 (京都府市町村教育委員会連絡協議会事務局長)
島本 由紀	京都府北方領土教育者会議会長 (京都市教育委員会首席指導主事)
西田 三郎	京都府北方領土教育者会議副会長 (南丹市立殿田中学校長)
奥村 光太郎	京都府北方領土教育者会議事務局長 (京都市立向島中学校教諭)
小森 誠	京都府北方領土教育者会議事務局次長 (京都府教育庁指導部社会教育課社会教育主事)
高垣 明夫	京都府北方領土教育者会議運営委員 (京都市総合教育センター指導主事)

(2) 選考基準

- ・北方領土について正しい認識や理解に基づき記述されているか。
(正しい認識・理解の視点)
- ・北方領土問題に関心を持ち、主体的な姿勢で学ぼうとしているか。
(主体的な態度・関心・意欲の視点)
- ・北方領土問題の解決に向けて自らができることを考え、取り組もうとしているか。
(将来への展望の視点)
- ・上記の視点を持ち、読み手に共感を与える内容であるか。
(啓発資料としての価値の視点)

3 選考の結果

別紙の入賞者一覧のとおり

4 選考を終えて

- ・このコンクールも4回目を迎え、昨年度同様1000点をこえる応募があった。関係機関ならびに各校の先生方のご理解とご協力に深く感謝したい。
- ・作文の内容をみると、各校での取組や授業内容を反映したもの、生徒の多様な感性でとらえたものが多くみられた。北方領土問題に対する理解のひろがりが見えがえる。
- ・一方で、一部に極端に内容量の少ない作文や主張が不明確なものも見受けられた。せつかくの応募なので、よりていねいな取組が望まれる。

第4回「北方領土と私たち」作文コンクール入賞者

氏 名	学 校	学 年
最優秀賞（京都府知事賞）		
奥村麻衣	京都府立園部高等学校	2年
最優秀賞（京都市長賞）		
木村瑞季	京都市立嵯峨中学校	1年
優秀賞（京都府教育委員会教育長賞）		
藤木志帆	向日市立西ノ岡中学校	3年
優秀賞（京都市教育委員会教育長賞）		
横江萌乃	京都市立西京高等学校附属中学校	3年
優秀賞（北方領土問題対策協会理事長賞）		
栗津美沙	京都市立嵯峨中学校	1年
優秀賞（北方領土問題対策協会理事長賞）		
西谷優奈	綾部市立豊里中学校	2年
優秀賞（北方領土返還要求京都府民会議会長賞）		
湯澤優希	京都市立向島中学校	1年
優秀賞（北方領土返還要求京都府民会議会長賞）		
関千尋	宮津市立養老中学校	3年
優秀賞（京都新聞社賞）		
川山芽里	京都市立大枝中学校	3年
優秀賞（京都新聞社賞）		
中川勇人	亀岡市立高田中学校	3年
優秀賞（KBS京都賞）		
明慶大地	京都市立北野中学校	3年
優秀賞（KBS京都賞）		
出田翼	南丹市立殿田中学校	3年

第4回「北方領土と私たち」作文コンクール入賞者

氏 名		学 校	学 年
佳 作	湯 口 優 奈	京都市立嵯峨中学校	2 年
	濱 本 明 日 美	京都市立嵯峨中学校	2 年
	齊 藤 泉	京都市立藤森中学校	3 年
	樹 山 七 海	京都市立大枝中学校	3 年
	齊 藤 瑞 月	京都市立松尾中学校	1 年
	出 口 美 穂	向日市立西ノ岡中学校	3 年
	谷 垣 ひ かる	京丹波町立瑞穂中学校	1 年
	平 方 沙 耶	綾部市立豊里中学校	2 年
	関 彩 花	宮津市立養老中学校	3 年
入 選	江 口 愛 奈 美	京都市立大宅中学校	1 年
	山 名 智 之	京都市立西京高等学校附属中学校	3 年
	西 川 栄 未	京都市立西京高等学校附属中学校	3 年
	加 能 隆 太	京都市立京都御池中学校	3 年
	竹 内 亮 輔	京都市立弥栄中学校	1 年
	山 本 凧 紗	京都市立春日丘中学校	1 年
	高 橋 夏 香	京丹波町立瑞穂中学校	1 年
	久 永 侑 里	京丹波町立瑞穂中学校	1 年
	太 田 智 咲	綾部市立豊里中学校	2 年
	中 立 洵	宮津市立養老中学校	3 年

最優秀賞などの表彰式

京都府知事賞・京都府教育委員会教育長賞の表彰式

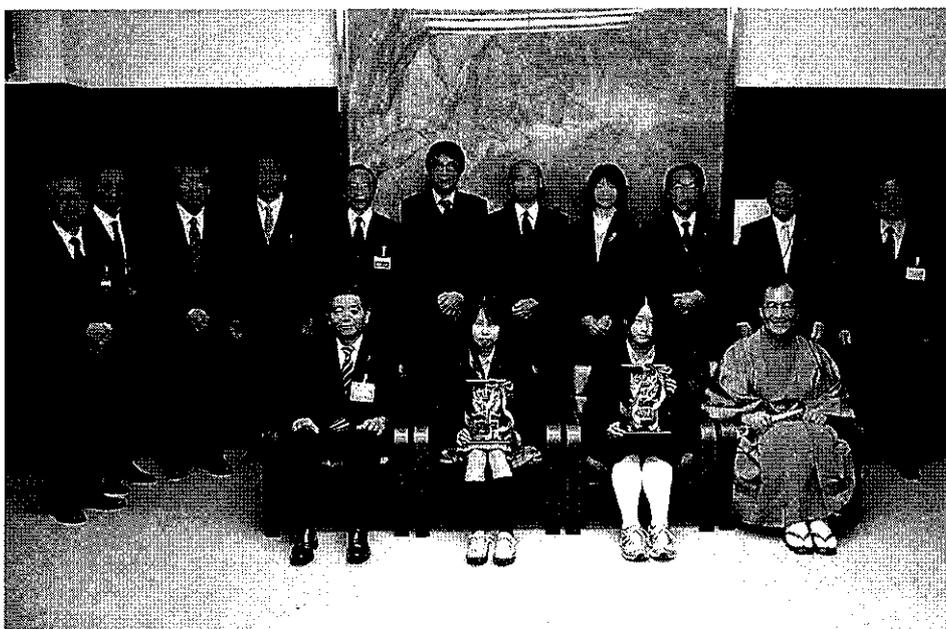
平成22年 1月25日 京都府庁



山田啓二京都府知事、宮野文穂京都府教育庁教育次長から賞状が授与されました。

京都市長賞・京都市教育委員会教育長賞の表彰式

平成22年 1月19日 京都市役所



門川大作京都市長、高桑三男京都市教育委員会教育長から賞状が授与されました。

入賞作品

最優秀賞（京都府知事賞）

私が思う解決への糸口

京都府立園部高等学校
二年 奥村 麻衣

初めて訪れた北海道で、私が最初に見たものは一枚の大きな看板でした。それには「北方の四島が返るその日まで、戦争は終わらない」と書かれていました。北方の四島、すなわち北方領土のことです。

私は中学生の頃から、三年間「近畿地区少女北方領土研修会」に参加してきました。北方四島の歴史や現状、ビザなし交流についての講義を受け、重要な問題であるはずなのに、日本が抱える他の国際問題に比べるとあまり進展していないと感じていました。

進展していない理由に、千島列島はどこまでなのかと対立していることが挙げられます。日本は北方四島を含まないウルップ島等以北を指しているのに対し、ロシアはウルップ島等以北の島々と択捉・国後の二島としています。これはよく取り上げられる論点で、とても重要なことです。しかし、ただ日本とロシアの国境線と領土を決めるだけではないのでしょうか。北方四島には強制的に引き揚げさせられた元島民の方々と、四島を故郷として住んでいる現島民の方々がおられます。北方領土問題が解決したとき、彼らの生活をどのように保障するか考えなければなりません。

ところが、この問題について具体的な解決策が出されていないことに、私は胸が痛みます。

この事実を知った時、私は研修会で見たビデオの内容を思い出しました。元島民の男性は、

「一刻も早く故郷の島に帰りたい。」
とおっしゃっていました。元島民の女性は

「故郷の島を離れたくない。けれど今更どちらの領土かは関係ない。元島民の人たちとともに暮らすことになったら喜んで歓迎する。」

とおっしゃっていたのです。この言葉を聞いたとき、これこそが北方領土問題解決への糸口なのかもしれないと、ぼんやり感じたことを覚えています。そして今では、はつきりとそう思うようになりました。

日露通交条約が結ばれたとき、樺太は両国民混住の地とされていました。日本とロシアは一方だけの領土とせず、「共存」という道をとったのです。このように北方領土も、両国が「共存」の道をとることで、平和的にそして元島民・現島民の双方が悲しむことなく解決できると思うのです。

この考えを実現させることは難しいかもしれませんが、しかし、多くの日本人、ロシア人たちが問題解決に向けて関心を寄せ、世論を高めれば両国政府は進展に向けて動かざるをえなくなるでしょう。

そのためには、少しでも多くの人に北方領土問題の本質を伝えていきたいと思えます。私にはこのような小さなことしかできません。しかし、やがてはこれが大きな力になり、解決へのエネルギーとなることを信じています。

最優秀賞（京都市長賞）

北方領土と私たち

京都市立嵯峨中学校

一年 木村 瑞季

私は、この作文を書くまで北方領土についてあまり知りませんでした。だから、作文を書くために、この問題について、しっかりと調べ考えました。北方領土とは、ロシアとの国境から、非常に近い四島のことです。これらが、六十年ほど前の第二次世界大戦終了時から現在に至るまで、ロシア（旧ソ連）に占領され続けています。

では、なぜ、そう簡単に占領されてしまったのか、私はこう考えてみました。そのころは、戦争終了直後だったため、「四島を守るだけの力が日本になかったのだらう」と。でもこれは、私の予想に過ぎません。そこで調べてみると、私の考えはだいたいいましたが、一気にいやな気分になりました。ソ連による北方領土の不法占拠は、敗戦後の武装解除が命取りとなったのです。ソ連は日露戦争の仕返しもあったのか、日ソ中立条約を守らなかつたのです。四島を防衛していた兵士約二万人の大半がシベリアで抑留されました。守備隊が、武装解除した島でソ連軍の侵攻は続きました。日本の武装解除は、ソ連の四島への侵略を簡単に進めることにつながったと思います。また、敗戦の直後だったため、日本政府が機能していなかったのも原因の

ひとつだったのでしよう。

次に、なぜ約六十年も前に起こったことが未だに解決されないのか、ということですが、私は六十年経っても解決が難しい、または解決できないことが、百年後や二百年後に解決できるとは、到底思えません。北方領土の問題は、もっと早くに解決するべきだったのではないのでしょうか。

私たち人間は過去に戻ることはできません。そして、限られたことしかできません。北方領土問題を解決しようと思うなら、その限られたことの中から、今の私たちができることはどんなことなのかを考えました。それは、「北方領土について「関心をもちつつ」と。「忘れないこと」。「声をあげる」との三つだと、私は思います。北方領土について「関心をもち理解しておかなければならないこと」は、「北方領土が、ロシアに不法占拠されている現状が当たり前前のことではありません。これらの島は紛れもなく私たち日本の島々なのです。」ということですが、そして、「忘れないこと」は、多くの日本人が四島に住んでいたことや、その人達のふるさととしての思い出が島々に残されていることです。三つ目の「声をあげる」とは、とくに大事なことです。どんなに関心をもちても、忘れなくても、その思いを行動に移さなければ何にもなりません。私たちをとるべき「声をあげる」という行動は大きな意味があります。国と国との交渉をするのは政治家です。だから、政治家に私たちの思いを伝えるために声をあげ、それにより、しっかりと働いてもらうことが必要です。この三つが国民に広まってこそ、北方領土問題は解決するのではないのでしょうか。

「北方領土」と本土との境界

向日市立西ノ岡中学校

三年 藤木 志帆

国境とはいったい何なのでしようか。最近、北方領土周辺で日本の漁船が誤って日本とロシアの境界を越えたため、国境を警備しているロシアの船に拿捕されるといった事件がありました。境界は見えませんが。そこに境界があることも知らずに超えてしまった人々はどんな気持ちでしようか。私は目に見えないものの恐怖を強く感じました。

昔から北方領土は、日本固有の領土でした。地理的には北海道と最も近い貝殻島との距離は、わずか三、七キロメートルしかありません。しかし北方領土は、当時のソビエト連邦に不法占拠されて、現在はロシアの領土のようになっています。

北方領土がソ連に不法占拠されるまでそこに住んでいた人々はどうなったのでしょうか。昔から慣れ親しんできた土地を追い出されて、見知らぬ土地に住まなければならなくなつた人々は、どんな気持ちだったのでしょうか。それはとても過酷なことでものすごく大変なことであつたと思います。それから時を経て、日本は一九五六年に日ソ共同宣言でソ連との国交を回復します。しかし、北方領土は日本に返還されませんでした。こうして北方領土は事実上ロ

シアの領土となり、簡単には行けなくなつたのです。

では、ロシアはこの島々をなぜ手に入れなければならなかつたのでしょうか。それは資源の確保が大きな目的の一つだと思えます。北方領土付近は暖流と寒流がぶつかるので水産資源が豊富です。またその辺でしかとれない花咲ガニもたくさん生息しています。しかし、シベリアの寒い地域には草も生えない不毛地帯が広がっています。そこでは人が住むことが大変困難です。だから、資源の確保という点で、北方領土はロシアにとつてとても魅力的な土地だったのだと思います。

私は、現在の北方領土の状況をテレビで見えて知りました。北方領土の島々には、ロシア人が住み、かつて日本人が住んでいた頃とは全く変わってしまったました。しかしロシアの人々もまた北方領土の住人です。もし、北方領土の問題が武力で解決されることになるなら、同じ悲劇を北方領土に住むロシアの人々も味わうことになります。このようなことを二度とくり返してはいけません。

ロシアが本土と北方領土の境界を厳重に警備しているのは、北方領土の返還をおそれているからだと思えます。これは日本とロシアとの間で十分な話し合いがなされていないからだと思います。私は長い時間がかかっても、両国で納得できる話し合いが行われて、北方領土が早く日本に返還されることを望んでいます。

優秀賞（京都市教育委員会教育長賞）

本当の問題

京都市立西京高等学校附属中学校

三年 横江 萌乃

「北方領土問題」と聞いてまず私の脳裏に浮かんでくることは、日本とロシアの歴史的な関係や国境・漁業といった問題である。テレビや新聞などで取り上げられたり、授業で学習したりする内容も、これらの問題に関することが多いのではないかと思う。

しかし、私はふとこの問題がおきるまでこの地域で生活していた人々はどうなったのだろう、そして現在ほどのような人々が暮らしているのだろうかということに疑問をもった。そこで元島民が語るという、終戦当時北方領土で生活していた人々の島への思いが書かれた資料を読んできた。そこには私たちでは感じ取りにくい、元島民の方々だからこそその熱い思いが多数紹介されていた。中には「終戦という言葉が耳にして、やっとなら悲しい戦争がなくなり、安心して生活が出来ると感じた。五年ぶりのさつま芋の味が忘れられない。戦後は生存競争のための食糧戦争そのものだった」というように、ソ連の占領下での厳しい生活がリアルに描かれていて胸がしめつけられる思いがするものもあった。また、「ようやく衣食住に恵まれ幸せを噛みしめている。ただ一つ心残りなのが墓参ができないこと。私

の家族が現在も墓地に淋しく眠っている」というものもあった。私はこれらの文章を読んで、「北方領土問題」について知らないことがたくさんあるということを実感した。この問題に直接関わりのある人々の心の中にもまだまだわだかまりが残っていることは間違いない。戦争が終わり、六十年以上たった今も、自分の家族が眠っているお墓にお参りに行くことさえ出来ないという悲しい現実を目の前につきつけられたような気がする。

現在、北方領土に行くことは海外旅行と同じ扱いになるそうだが、しかし、日本政府もロシア政府もこのような人々の行き来をあまりよく思っていないと聞いた。確かに政治的・経済的な問題は大変重要なことだと思う。でも、その土地を一番良く知っている元島民の人々の思いにもっと耳をかたむけることも必要でないだろうか。互いの国の事だけでなく、それに関わる人々の心の声を聞き合って、まずは墓参などが出来るような環境、心の苦しみを取り除かれるような雰囲気をつくることにもっと力を注いでほしいと思う。また、私自身も最近までこの問題について詳しくは知らなかったし、深く考えてもいなかった。でも、何かきっかけがあれば考えは深まるし理解も進む。そのような人が増え、この問題に関わりのある人だけが苦しむのではなく、他の人々も含めてみんな向き合っていくことができないようなになれば、それが解決に向けての第一歩になるのではないかと思っている。

優秀賞（北方領土問題対策協会理事長賞）

すばらしい島、北方領土

京都市立嵯峨中学校
一年 粟津 美沙

北方領土、この言葉を聞いたとき、私は習っているはずなのによく思い出せなかった。多分、以前に習ったときの私は、興味を示さず先生の話をただただ聞き流していたのだろう。しかし、今回、社会科の授業で「北方領土」に関するビデオを見たとき、今までにないほどの興味がわき、心が大きく動かされた。

なぜ、元々日本の領土なのに、ロシアのものになってしまったのか。私は、自分の意思で北方領土に住んでいた日本人が、ソ連軍に追い出されてしまったことが哀れでならない。ソ連（ロシア）への怒りもこみ上げてきた。これらの感情と同時に、今までは、あまりなかった北方領土への関心が、私の心の中に生まれてくるのが分かった。

私は、パソコンで北方領土を調べてみることにした。私が一番気になったのは、「なぜ、ロシアが返してくれないのか」ということだ。元々日本の領土なのに、ロシアには十分な領土があるのに、なぜ、返してくれないのだろう。強い疑問が私の心に残った。残念ながら、この答えはインターネットで調べ切れなかった。だから、お父さんに聞いてみることにした。お父さんの答えは、「北方領土がある

だけでその国の経済水域が大きく広がり、水産物が豊富になるし、これらの島々は自然が豊かにあるから、ロシアはそう簡単に手放したりしない。」というものだった。確かに北方領土の択捉島・色丹島・国後島・歯舞群島は、写真で見ると、どこも自然が豊かで、近海には色々な魚もたくさん棲んでいる島で、ロシアもそう簡単に手放したくない気持ちにはよく分かる。でも、元々日本のものだ。ソ連（ロシア）がそれを横取りした。ロシアが北方領土を自国の領土として、自由に使う権利がどこにあるのか、と私は思う。では、どうやったらロシアから返してもらえるのだろうか。やはり、まずはロシアとの友好関係を強化し、両国の誰もが不愉快な思いをせずに北方領土の日本への返還がなされていくことが、私は一番の理想だと思う。そのため現在の様々な交流が役立ちつつあり、ロシアとの友好関係が徐々に強くなっている。私の考えでは、このときに、日本が北方領土を必要としている理由を強く訴えることが大切だと思う。ロシアが日本側の主張をよく考えてくれれば、きっと分かってもらえるだろう。私はそう信じていたい。

また、ロシアの人々に私たちの思いを伝えるには、日本国民の努力も、もつと必要だと思う。この北方領土問題の解決の糸口は、私たちの北方領土に対する気持ちの盛り上がり方で決まるのではないだろうか。日本国民の思いが高まり、力を結集することで、この問題は解決できると思う。そのためには、日本国民の北方領土に対する意識をより強いものに変えていかなければならない。私は、一日でも早く、北方領土というすばらしい島々が私たちの元へ帰ってくることを強く願っている。

北方領土問題を知って

綾部市立豊里中学校
二年 西谷 優奈

北方領土には、今、たくさんの方々が生活しています。けれども、実際は日本の領土で、かつてはたくさんの方々が住んでいたそうです。だから私は、北方領土が返還され、元々そこに住んでいた人が元に戻ればいいなあと思いました。

旧ソ連の人々は、戦争が終わった後にもかかわらず、北方四島に侵入してきました。そして、島の人々は島から追い出され、収容所に入れられました。その人々は収容所でもひどい扱いを受けました。その中でも亡くなられた人がいるそうです。そんな扱いをしたソ連の人は、絶対に許されないとします。この時の段階で亡くなってしまった人は、そんなことさえなければ戦争が終わり、平和になったか、そんなことができたかもしれません。まるで罪人のように扱われ、島を追い出された人々、それで亡くなってしまった人々のことを、その時のソ連の人は何も思わなかったのか、そもそもどうしてソ連が北方領土を占領したいのかとても疑問に思います。

北海道の根室市に住んでいる元島民の人は、自分たちが住んでいたところがすぐ近くにあるのに、自分たちの国と

してではなく外国に訪問するという形としてしか故郷に帰れないと知って、自分の生まれ育ったところに帰れないなんてとても寂しいだろうなと思いました。もし、自分が島民の人と同じように、「今住んでいる家に帰ってはいけない。」と言われて追い出されて、でもそこが見える場所に自分がある、そんな状況になったら、「絶対帰りたい。」と思うだろうし、そこにまた戻れるようになるまで必死で努力するだろうし、それでも無理で、そのまま死んでしまったら「結局、帰れなかった。」と、すごく未練が残ると思います。たぶん、島民の人も同じ気持ちでいると思います。だから、早く北方領土が返還されたいと思います。

現在、北方領土を取り戻すためにたくさんの方々が「北方領土返還運動」が行なわれています。今後、この運動が成功し、島民の人たちが元の島で生活ができるようになるればいいと思います。その結果、今そこに住んでいるロシアの人たちは追い出されることにはならないのでしょうか。もし、そういう結果になったら、そこで育ったロシアの人も島民と同じことになってしまいます。そうならないためにも、ロシアは日本に領土を返還し、日本と本当の友好関係を築いていかなければいけないと思います。そして、文化が違っても、ロシア人と日本人が仲良く同じ土地で暮らせるようになったらいいなと思います。

北方領土問題の解決に向けて、私たちはこれから「自分には関係のないこと」として処理せず、一人ひとりが関心を持ち、この問題について知っていくことが何より大切なのではないでしょうか。

優秀賞（北方領土返還要求京都府民会議会長賞）

私と北方領土

京都市立向島中学校

一年 湯澤 優希

私は知りませんでした。私たちが暮らす日本に、外国に占領された四つの島があることを。私は知りませんでした。島を追い出された人達が、今も悲しい思いで故郷の夢を見ているということ。

私は今、北方領土の学習を終えて遺憾に思うことがあります。私はこれまでこの日本で、平和に楽しく過ごしてきました。そして日本人ならだれもが同じような気持ちであると信じていました。つまり、戦争の傷あとなど、どこにも残っていないと思っていたのです。しかし私の知識には、大きな間違いがありました。それは北方領土が今なお外国によって不法に占拠され、自分が生まれ育った故郷に帰ることすら許されない人達がたくさんいるということです。

北方領土とは、歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島という四つの島をさしています。北方領土は美しい自然に彩られた、とても豊かな島々です。一九四五年の終戦時には約一万七千人の日本人が、漁業を中心とした生活を営んでいました。また、森林資源も豊富で、島でとれた木材は根室や函館などに送られていました。その他にも金・銀・硫黄といった鉱産物も採掘されていました。これらの記録を見

るだけで、北方領土がいかに素晴らしい島々であるのかがよくわかります。

では、どうしてそのような価値ある島々が失われてしまったのでしょうか。それは当時のソビエト連邦（現在のロシア）が、日本との約束を一方的に破った上、戦争が終わっているにもかかわらず、島に攻め込んできたからです。歯舞群島に住んでおられた河田さんは、「ソ連軍の兵隊が二人一組で土足で上がり込み、日本兵やアメリカ兵がいなか、武器を隠していないか、ずいぶん調べられました」とおっしゃっています。

ソ連は今ではロシアになっていますが、北方領土を返そうとしない姿勢にはまったく変化はありません。ですから、私たちは北方領土の返還を、要求し続けなければなりません。なぜならば、土足で踏みつけられ、不当に奪われた領土を返してもらおうということは、ごく当然の正義に基づくものだからです。

では北方領土の返還を実現するために、私たちにできることは何でしょうか。私は国民一人一人が北方領土について関心を持ち、返還を求める声を絶え間なく発し続けることがその第一歩になると思います。日本国民が北方領土返還について関心を失ったら、ロシアが返そうという気になるはずがないからです。

私たちにできることは平和的な取り組みだけです。しかしこれはいつか大きな力に広がっていくはずで、きっとチャンスはめぐってくるということを信じて、北方領土について学び、返還を求め続けようと思います。

優秀賞（北方領土返還要求京都府民会議会長賞）

島民達の願い

宮津市立養老中学校
三年 関 千尋

今もロシアが領有している北方領土。ここに住んでいた島民の人たちは、果たしてどんな思いでいるのだろうか。

二〇〇八年一月一日、北方領土の返還を求めるデモ行進が東京の銀座で行なわれた。この日は、北方領土返還の原点となった日である。この運動への参加者は、約五百名。この中には、もちろん、元島民の方もいる。しかし、そうでない方もたくさんいるのだ。この運動で、全国へ北方領土への思いを伝えることができる。

また、たくさんの人たちが北方領土を返してほしいと願っていることもわかる。自分の故郷に帰れないのは辛いはずだ。「故郷が特別な場所」という人も少なくはないだろう。故郷に帰ると、懐かしく、落ち着くというような気持ちには、私も旅行から帰ってきたときに味わうことがある。この島民の人たちのように、何十年も故郷へ帰られないのは、私なら耐えられないことである。

しかし今、北方領土に住むロシアの人たちは、どのような気持ちでいるのであろうか。ロシアに北方領土を占領されてから約七十年。ロシアから移住した人々も、たくさんいるだろう。なぜ、これほどの時間がかかってしまったの

だろうか。それは、日本の主張とロシアの主張が合致していないからだ。その一つに、ロシアは千島列島に北方領土が含まれると捉えているが、日本は含まれないと主張している、というものがある。このように、意見が食い違っていることがあるため、現在も返してもらえないままなのだろう。

また、ロシアは「領土は戦いで奪うもの」という認識が強いようだ。だから、領土を返すということは、ロシアにとって自らの意志に反しているというのである。「北方領土」という言葉は、社会の授業で習っていて大勢の人が知っていると思っていた。しかし、実際は私のように、北方領土について知らない人が多い。だから、ロシアには本当に返してほしいというに私たち日本国民の思いが伝わらないのではないだろうか。これまで、確かに北方領土に関係する人たちは少ない。私も、北方領土を「国の問題」としてしか見たことがなく、ほとんど具体的な関係を持っていない。しかし、日本人として、もつと日本がかかえる問題に目を向けるべきである。

今回、北方領土について調べてみて、改めて島民の人たちの思いを強く感じた。私は、日本の人たちもロシアの人たちも困らないように、北方領土が両国ともが共存できる場所になればよいと考えている。日本政府には、両国が納得するようなよい案を早く考えてほしいし、実現に向けて努力してほしい。

優秀賞（京都新聞社賞）

北海道の人々からみた北方領土

京都市立大枝中学校

三年 川山 芽里

私には、北海道札幌市に住んでいる祖母と叔父・叔母がいます。私は、今まで北方領土について興味をもったことがありませんでした。しかし、実際に北方領土を身近に感じている祖母などに聞いてみると、とても関心が湧いてきました。

北海道の人々は、北方領土のことについて、どう思っているのか疑問に思い聞いてみました。私は、四つの島を全て返して欲しいと思っているだろうと考えましたが、実際はとりあえず二島を返してもらいたいし、さらにロシアの人とうまく交流を深めたいと言っていました。私は、その返答が意外で少し驚きました。私は、今まで北方領土に住むロシア人に対して、北海道の人たちは敵視しているのかと思っていました。現実には友好的で親交を深めたいと考えている人が多いということを知りました。

現実には、八月三十日に行われる総選挙で、北海道から立候補しているほとんどの候補者が政策に北方領土問題を掲げていると聞きました。このことから北海道の人たちの北方領土問題に対する関心の深さがよくわかりました。私たち京都に住んでいる者たちは、北方領土問題について

あまり耳にせず、興味や関心をもつ人も少なく、ニュースで取り上げられることも少ないですが、北海道の人たちは、現実的で身近な問題としてとらえているのだなあと思いました。

そもそも北方領土問題は、太平洋戦争がきっかけとなりロシアに占領させて、日本人が住めなくなり現在に至っています。私は、この問題を日本人がどのようにとらえて、また、どのようにしてロシア政府に日本の人々の北方領土に対する思いや願いを伝えられるのかを考えてみました。国と国との政治的な解決を政府に期待して、ただ待っているだけではなく、国民同士の交流や親交を深めることによって、日本人の思いをロシアの人々に理解してもらって、ロシアの人々からロシア政府に訴えかけてもらうというのも北方領土返還という問題の一つの解決策だと思いました。

北方領土は、豊富な海産物がとれる、オホーツク海に浮かぶすばらしい島々だと祖母は言っていました。けれども、戦後何十年間もこの問題が解決されなままになっているという事は、とても悲しいことです。両国政府、また、両国の国民がもつとこの問題に関心を持ち、力づくの解決ではなく平和的な解決策が早く見つかり、一日も早く解決すればいいと思いました。

優秀賞（京都新聞社賞）

北方領土返還に向けて

亀岡市立高田中学校
三年 中川 勇人

現在の日本には、国境がはっきりしていない島々の問題がいくつもあります。例えば韓国との竹島問題や尖閣諸島の問題です。これらの問題は結構ニュースでも報じられています。しかしこれらの問題よりもっと深刻なこと、それは「北方領土問題」だと思います。北方領土問題は、戦後のサンフランシスコ平和条約や日ソ共同宣言で日露両国のすれ違いや意志の違いによって生まれたと僕は思いません。

このことで僕は外国と条約を締結する時は、しっかり両国の意志を確認する必要があると思えました。なぜならば、両国の意志の違いによって戦争がおこることが多いからです。世界が平和になるためにもお互いの国を尊重し、平和な条約が世界中で結ばれることを願っています。

そのことを踏まえて、両国の首脳、または両国の国民がしっかりと話し合うことが大事だと思います。今、北方領土では、四島交流や墓参など少しずつですが日露間の交流が増えていくようです。どんどん交流が活発になることは良いことだと思います。僕は日露両国の交流が一層進み、北方領土が日露両国の共有地になればいいと考えていま

す。

しかし実際には、簡単に解決できるものではありません。例えば、経済水域の問題があります。北方領土は、四島だけだといつても、その中で一番大きな択捉島は、本州・北海道・九州・四国に次いで広い島です。もし日本に返還されると、日本はロシアから広大な経済水域を得ることになります。そうなることややはり資源などの問題が絡み「北方領土を両国の共有地に」という僕の考えは実現することが難しいようです。

そこで僕が考えたことは、まず多くの人に北方領土問題について正しく理解してもらうことです。北方領土に近い北海道などでは、生徒と北方領土に住む人たちの交流が行われているようですが、広く小中学生に呼びかけ、交流を深めることも大切だと思います。交流が深まる中でお互いの理解や信頼が深まり、そのことが北方領土問題の解決に結びつくと考えます。

僕もぜひ北方領土に行って、北方領土の良さを体験したり交流に参加したりして、その様子を同世代の人たちに伝えていきたいです。それが本当の北方領土問題の解決につながると思います。

優秀賞（KBS京都賞）

私たちの北方領土

京都市立北野中学校

三年 明慶 大地

「北方領土とはどこのことか？なぜ、北方領土を巡って争っているのか？」と質問すれば、日本人の何割の人が完璧に答えられるだろう。私は、答えられる人は少ないと思う。北方領土が問題になっているのは知っていても、詳しくは知らないという人が多いのではないだろうか。

北方領土があることによって、その周辺の海産資源や石油などの資源を得ることが出来る。だから、北方領土は日本にとって大切な領土なのである。しかし、北方領土周辺の人々を除けば、国民の意識は低いのではないだろうか。国もそうである。

例えば、みなさんは北海道に行ったことがあるだろうか。日本の最北端は、択捉島である。私も学校でそう習った。しかし、北海道の稚内に行くとき宗谷岬に、「日本最北端の碑」というのが立っていて、観光客はここで記念写真を撮って帰る。おかしいと思わないだろうか。しかし、このことについて、市長は「これしか観光資源がないから、これだけは択捉島返還の日までこのままにさせてほしい。」と言っているそうだ。このことを知って私は、観光客も手放さなくて、北方領土の島々も欲しいなんて都合が良すぎると

思った。本当に北方領土を返還してもらいたいのなら、最北端の碑なんて壊して、「ここは最北端ではない。最北端は択捉島だ。」という姿勢をロシアに見せつけてたらいいいはないか。日本がこんな曖昧な姿勢だから、この問題は未だに解決していないのだ。

だが、ただ単に北方領土を取り返せば良いというものではない。今日、北方領土に住んでいるロシア人や北方領土に住んでいた日本人をどうしたらいいか研究が進んでいる。北方領土には終戦まで、三千世帯以上の人々が生活していたが、強制的に北海道へ移住させられた。現在では、その人たちは全国各地に住んでおり、北方領土には日本人が一人も生活していない。我々は、もともと北方領土に住んでいた人を再び自分が生まれ育った地に帰らせてあげなければならぬ。それと、北方領土に現在住んでいるロシア人のことも忘れてはいけない。島に残ろうとするロシア人や帰ろうとするロシア人に一定の支援をして、どちらでもできるようにするのが、日本のすべきことだと思う。

そうすれば、きっとロシアや世界の人々から見ても納得がいくだろう。

これからの北方領土問題は、北方領土周辺の人々だけの問題ではない。日本国として重要な問題だ。北方領土の返還問題は、やり方しだい、ロシアとの関係が良くも悪くもなるだろう。この問題についての国民の意識を高めることを最初にやるべきだ。そうして、国民全体で動かなければ、この問題は解決しないと思う。私たち一人一人がこのような意識をもつだけで、北方領土は返還されると私は信じている。

北方領土問題について

南丹市立殿田中学校
三年 出田 翼

北方領土。この言葉は自分が小さい時から聞いたことのある言葉です。実際中学二年生の社会科の授業でも北方領土について学習しました。また、日本とロシアが北方領土をめぐる対立しているところをテレビで見たこともあり、僕はその時「何で仲よく分け合わないのか。」「二つに割って日本とロシアに平等に分ければいいではないか。」「最初は単純に考えていました。でももつと真面目に考えなければならぬのではないかと思わせるニュースがある日、特集として飛び込んできたのです。それは北方領土の周辺で日本の漁船が捕った魚介類は全てロシアのものだ！と、ロシアの人々が激怒しているものでした。その理由を、ニュースのリポーターがロシアの人々に聞くと、「北方領土はロシアのものだ。それくらい当たり前だ。」と険しい顔つきで話していました。逆にそれを見た日本人も「北方領土は日本のものだ！ロシアのものでは絶対ない。」と批判していました。僕はこれを見た時、どちらの国も間違っていないのではないかと思いました。なぜなら、やはり日本もロシアも北方領土を重要視しているし、大切にしてからです。でも北方領土をめぐる、このまま

ずっと日本とロシアは対立したままでもいいのでしょうか。決してよくないはずですよ。お互いの国が譲り合うことなく、一つの土地を理由に対立するなど、もつてのほかです。戦争は罪のない人間の命をたくさん奪い、人々の希望さえ奪ってしまふ最悪な行為です。これは世界中、何があるうともしてはならない行為だと僕は思うのです。

では、北方領土はいつたいどうすればいいのでしょうか。僕はいろいろな観点から考えてみました。今すぐには不可能かもしれませんが、北方領土を日本とロシアの文化交流拠点として確立させるといふ方策はどうだろうかと思えます。二つの国の技術や特色をうまく生かし、日本人とロシア人の交流を深めていくことで紛争を回避できるし、一方的な意見の押しつけや感情のぶつかり合いでなく、お互いのことをさらに深く理解し合える関係になると思うのです。すぐには無理ですが、少しずつ理想に近づくことはできると思えます。僕の考えは、複雑に絡み合った国際関係の中で言えばとても幼いものかもしれませんが、でも相手のことを思いやり助け合ったりする精神こそが、世界から戦争や紛争をなくす唯一のものだと思うのです。今回の作文を通じて、僕は国と国が助け合うことや世界の問題をよい方向へ考えていく難しさを感じることができました。これから僕は、このような問題にまず目を向けること、そして自分なりに一生懸命考えること、そんなことからスタートしていきたいと思えます。そして今よりもっと世界の国々の関係がわかってきたとしても「世界の平和を大切にすることこそが最も重要なことだ」と言える大人になりたいと思います。

私の提案（北方領土について）

京都市立嵯峨中学校
二年 湯口 優奈

「貸した覚えが無いのに、返ってさえこない。」

私には歳の離れた弟がいますが、こういうことが時々あります。「返して。」と言っても曖昧な返事しか返ってこない。ましてや私の物を私物化しているのです。弟は自分の物のように感じてしまったら、一筋縄では相手に返してくれるわけがありません。もっと早く強く交渉しておけば良かったと後悔しています。日本とロシアは「北方領土問題」で私と弟のような関係にあるのではないかと思えます。

北方領土は約百五十年の間、そして現在も、歴とした日本の領土です。にもかかわらず、実際には日本人ではなく、ロシア人が暮らしています。日本のものなのに、ロシアのもののようになっている。聞いているだけでも「それは絶対おかしい。」と思うのです。しかし、このおかしいことが、話し合いが積み重ねられているにもかかわらず、現在でも続いているのです。

戦後、ロシアの不法占拠により、北方領土から追い出された人達は愛する故郷を占領され、とても複雑な気持ちでいらつしやると思います。私も故郷であるこの京都が異国に占領されたならと考えると、悲しい気持ちになります。

「ふるさと」というものは、何時でも何処でも心の支えになるものだと思います。北方領土に在住していた方々は、きっと北方領土が返還され、いち早く自分達の故郷へ戻れることを願っておられると思います。

もし、北方領土が日本へ返還されたなら、どうなるかを考えてみます。ロシアが正式に北方領土を日本の領土と認め、北方領土に住んでおられた方々やその子孫の方々が島々へ戻ってこられるでしょう。もちろん北海道や他の地域からの移住も進むと思います。しかし、これまで島々に住んでいたロシアの人々はどのようなのでしょうか。占領されて六十年余りも年月が流れているのですから、この島々で生まれ育ったロシア人も多い。もし、その人達を追い出せば、今度は北方領土に在住していたロシアの人々から「ふるさと」を奪ってしまうことになる。日本人が感じたように悲しい気持ちになることでしょうか。そこで、最近では北方領土に住むロシアの人々と日本人との交流をしていると知りました。異国同士でありながら、お互いに文化を伝え合い、触れ合う姿はとても和やかなものでした。

そして、私はこの人々であれば共存していけるのではないかと思います。つまり一旦ロシア側に北方領土を日本の領有を認めてもらい、北方領土をロシアと日本の人々が共に暮らせるようにはできないであろうか。アメリカにチャイナタウンがあるように、異文化との交流の場として成り立つことはできないであろうか。言語による問題はあるが、言葉を越えて「心と心」で友好関係を築いていきたいと思いませんか。

佳作

北方領土について

京都市立嵯峨中学校
二年 濱本 明日美

私は北方領土問題についての詳しい知識はなく、自分には関係がなく、どうでもよい事だと思っていました。しかし、北方領土について調べてみると、日本人として真剣に考えなければいけない問題だということがわかりました。

現在、北方領土の歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島の四島は、条約でも日本の領土となっています。歴史的にも北方領土を開拓して、生活をしていたのは日本人です。にもかかわらず、日本人を追い出して、勝手に住みだしたソ連の人達に憤りを感じます。

現在、北方領土の島々に住んでいる人達には罪はないと思います。ロシアの人達は北方領土をロシアの領土だと思っ
て生活をしているのだから仕方のないことだと思いません。しかし、日本も北方領土を日本の領土であると主張し、これまで長い年月をかけて、ずっと交渉を続けていますが、返還されていません。どちらも譲らないのであれば、ロシアと日本の共同の領土にしてしまえばいいのと思いません。ところがそう簡単にはいかないのが現状なのです。

国際社会には何事にもルールがあります。各国がそのルールに従うことによって、平和な社会が生まれるのだと思

います。各国間で結ばれた条約はそのルールの一つですから、ロシアは日本と交わした条約に従い、北方領土を返還すべきだと思います。そして、返還が実現していません。で、日本とロシアとの間に平和条約が結ばれていません。四つの島が返還され、北方領土問題を解決することは日本とロシアの友好関係を深めることにもつながると思います。北方領土の早期返還のために、今も全国各地で返還運動が続けられています。平成四年には、日本人とロシア人とお互いに仲良くなり、北方領土について正しい理解と認識を深めるために、両国民の交流が開始されました。

このように北方領土について学んでみて、私は自分のできることは何だろうと考えるようになりました。私の住んでいる京都は、北方領土の島々から遠く離れ、現地に行くことは難しく、また中学生ゆえに返還運動に参加することも難しいです。北方領土問題の解決のためには出来ることは返還運動だけではないと思います。国民一人一人が北方領土問題についての知識と理解を深めることが大切だと思います。だから、私は北方領土のことをもっと詳しく調べて、真剣に考えていきたいと思えます。

私が大人になる頃には、北方領土問題が解決して、日本人が自由に北方領土の島々に訪れて、豊かな自然や動物たちと触れ合うことができる社会になっていることを願っています。

佳作

北方領土返還への願い

京都市立藤森中学校
三年 齊藤 泉

私たちの日本には北方領土と呼ばれる四つの島からなる所があります。四つの島は択捉島、国後島、色丹島、歯舞諸島です。その北方領土には問題があります。ロシアと日本との間の問題で北方領土をめぐる争っています。なぜこのような問題になっているのかというと、もとは北方領土は日本の領土でした。しかし終戦後日本が降伏したあとロシアは北方領土を占領してしまいました。占領してきたロシア軍は住んでいた日本人に対して銃を突きつけたりしたそうです。昔は一万七千人ほどの日本人が住んでいましたが、今はロシア人が住んでいる状態です。

今、日本では北方領土の返還を願っています。返してもらうために北方領土に住むロシア人に援助を行っていて、例えば食料や暖房用の燃料を送る、荷物を運ぶ船をプレゼントしたり、地元の人役に立つ施設や設備の建設などをしていきます。しかし今でも北方領土領土問題は解決しておらず、話し合いが続いています。

ではなぜ北方領土問題が解決しないのか。それはロシア側に2つ原因があると思います。1つ目は経済水域がとられるからです。経済水域が日本にとられたらそこでとれる

魚などがとれなくなると金もうけができなくなるから返還しないのだと思います。2つ目はロシアのプライドがあると思います。一度手に入れた島を今さら返すわけにはいかないし、損をするからというプライドとまわりから支配力がないと思われたくないというのがあると思います。ロシアはロシアで返したくない理由があるので解決しないのだと思います。

私はこの北方領土問題でいくつか思ったことがあります。まずどうして日本人が住んでいたところにロシア軍が来て占領していったのかです。日本が降伏して平和な世界を取り戻せるころだったのにどうして占領したんだろうと思います。サハリンも千島列島もロシアのものとなっていてのに北方領土までとらないでほしいと思います。もう1つ思ったのは、やっぱり北方領土を返してほしいです。昔からずっと日本の島であったし、日本人が住んでいた大切な場所だから返してほしいです。ロシアは自分の国の領土を広げるため、金もうけするために北方領土を占領したのかもしれない。しかし生まれ育った北方領土をいやいや出た人はどんな気持ちだったでしょう。きつとつらい思いをしたと思います。このままロシアに占領されたままでは納得がいきません。1日でも早く北方領土が返ってくるよう願っています。

佳作

北方領土問題とのかかわり

京都市立大枝中学校
三年 樹山 七海

私が、今回この北方領土問題について調べていく中で、まず初めに思ったことは、「今、私たち学生でも、何かできることはないのだろうか。」ということでした。私は、あまり北方領土問題について知らないし、正直知ろうとも思っていないのでした。一度、テレビで北方領土問題について見たことがあります。その時に、「日本がもっと解決方法を本気で考えたら良いのに。」と思いました。あまりにもテレビで北方領土問題についてやるのが少ないから、この時は、日本はあまり行動していないものだと思ったのです。

今回、北方領土問題について資料を読んでいたら、「返還要求運動の歩み」というのがありました。それは、ロシアに北方領土を返してもらおうための運動のはじまりや、今までしてきたこと、どんなにたくさんさんの協会、連盟がつくられてきたか、などのことでした。

その中には、毎年集められる署名の数も書いてありました。その署名は、一番最初に集めた年で七万人をこえ、時には七百万人以上の国民の署名が集まっていました。この資料を読んだ時に、たとえばテレビで一度しか見たことがな

くても、この北方領土問題を解決しようと全国の人々が協力して、活動していることを知りました。

私は、昔に北方領土に住んでいた人の体験談も読みました。そこには、当時のソビエト人の行動が書いてあり、最後には、「生きているうちに島に帰りたい。」と書いてありました。この体験談を読むと、ソビエト人はどんなに非常識なことをしていたのかが分かりました。そして、今、私が平和に暮らしているのは、当たり前なんかじゃないんだと思いました。当時、北方領土に住んでいた人々に、もう一度、北方領土で生活ができるようにしたい、と私は心からそう思いました。

こうして調べると、北方領土を一日でも早く返還して欲しい、と思うようになったので、私は、「私たち学生でも、何かできることはないのだろうか。」と思いました。

しかし、今は私たちにでも、できるようなことは分かりません。でも、こうして学校の中で調べる機会をつくって、北方領土問題についてよく知ることは大切だと思います。北方領土問題解決に直接つながることではないけれども、この問題を他人ごとにはいけないと思います。私は、日本全体の問題だと思うから、一人一人がこの問題について真剣に考える必要があると思います。

佳作

北方領土について考える

京都市立松尾中学校
一年 齊藤 瑞月

今回の「北方領土学習」では、新しく学んだことや改めて確かめられたことがたくさんありました。それは現地の気候や食べもの、そしてロシアとの交流の歴史や条約の内容など、大変広い範囲に及んでいます。

まず気候ですが、「北方領土」と言うくらいだからとても寒いだろうと思っていました。しかし実際には二月でマイナス六度（最高気温）と、北海道の内陸部より温暖なのです。これは私がこれまでもっていた印象とは大きく異なるのでびっくりしました。

また、北方領土の四島付近には暖流と寒流の交わる所があり、海産物がたくさんとれるそうです。つまり、豊かな自然に恵まれた環境の中にあるということなのです。

次に、国際的な視点から北方領土をながめてみましょう。北方領土は古来より日本のものでした。しかし第二次世界大戦後にロシア（旧ソ連）に占領されてしまいました。つまり、ソ連によって四島に住んでいた日本人が追い出されてしまったのです。それからというもの、日本はロシアに北方領土の返還を熱く訴えかけています。

その一方で、年に一度ほどですが、北方領土の人々（ロシア人）との交流会があります。映像を見ると、その交流会ではたくさんさんの喜びや笑顔が満ちあふれていました。日

本の人は日本の文化を、ロシアの人はロシアの文化を教えあっています。この交流会の映像を見て、北方領土に住んでいるロシア人と日本人はこんなに仲が良いのに、どうして国と国（日本とロシア）では仲良くなれないのだろうと不思議に思いました。

私は学習を進める中で、もし北方領土が日本に返されたら、現在北方領土に住んでいるロシア人は、どうなるのだろうか、このまま日本に返還されなかったらどうしようといったたくさんさんの疑問を抱くようになりました。

まず、「今、島に住んでいるロシア人はどうなるのか」ということについて考えてみます。日本が旧ソ連に領土を占領された時、島に住んでいた日本人は追い出されてしまいました。それでは、返還されたら今住んでいるロシア人はどうなるのでしょうか。そのまま住み続けることができるのでしょうか。日本人に追い出されて家をさがすことになるのでしょうか。日本人がロシア人がやったようにやり返してしまふのであれば、それはとても悲しいことだと思います。私は日本人とロシア人が共に仲良く暮らしていくことができればいいと思います。

二つ目は、「このまま返還されないのではないか」ということです。私たちは長年返還を求める運動や話し合いなどをしてきました。日露通交条約もありますし、一生懸命返還を訴え続けてきたのです。だけど返還されないまま今日に至っています。どうして日本がこんなに努力をしているのに、ロシアは返還を認めてくれないのでしょうか。努力が足りないのでしょうか。私はこれからもしっかり学んでいっそうの努力を続け、勇気をもって返還を訴えていきたいと思っています。

佳作

領土問題解決とは

向日市立西ノ岡中学校

三年 出口 美穂

「北方領土」、その言葉を聞いて、もともと住んでいたけれどその地から追い出された日本人は「もう一度あの地で暮らしたい。」「一刻も早く、日本の領土に戻ってきてくれ。」「と真剣に思うでしょう。けれど京都で生まれ育ち、北方領土と何の関係も持っていない私は、「社会科で学んだ日本とロシアの領土問題」程度しか知らないし、関心もあまり持っていませんでした。

そんな私が、「この関心の差は何だろうか?」と思いました。

北方領土は日本固有の領土であり、今も多くの人々が返還を待っています。無理に追い出された人々なら、故郷にも思い出がたくさんあり、取り返してほしいと当然思っていることでしょう。だからこそ、北方領土は日本に返還されるべきです。なのに、同じ日本人でも北方領土に対する関心にこんなに差があつては、返還の思いをまとめることは難しいと思います。本当に返還を望むのなら、国民全員がこの問題に関心を持たなければなりません。このことが北方領土返還には必要だと思えます。

しかし、北方領土返還がかなつたとして、現在北方領土

に住んでいるロシア人の生活はどうなるのでしょうか。現在の北方領土には、ロシアならではの文化や美しい自然がたくさんあります。そこが日本の領土になれば、美しい自然は壊され道路が整備されて、近代的な情景になるかもしれません。結果として日本人が生活しやすくなっても、ロシア人が満足するかはわかりません。

それに、もし日本が昔されたように北方領土に住んでいるロシア人を追い出すようなことになったら、そこで暮らしていたロシア人はどう思うでしょう。

そんなことを考えていくと、北方領土返還はとても大切なことですが、領土返還だけが問題解決ではないと思います。

私が思う本当の問題解決は、領土を返す返さないと争う前に、北方領土で暮らしたいと思っている日本人が、そこで暮らせるようになることが今一番大事な問題解決だと思います。互いの国の文化や習慣のよいところを取り合つて交流できるような島になれば、互いの国の政府も仲良くなり、領土問題解決もすすむことでしょう。領土返還はそのあとでよいと思います。

わたしは、長い間時間がかかっても互いの国の北方領土で暮らしたいと思っている人たちが、そこで暮らせるようになることが本当の領土問題解決だと思います。

佳作

北方領土問題

京丹波町立瑞穂中学校

一年 谷垣 ひかる

もともとは日本の領土、でも、今はロシアの人々が住んでいる。すぐ見えるところにある島、ふるさと。でも、行けないところ。北方領土は、そういうところだと知ったとき、なぜ、そんなことになったのかなあと思いました。

第二次世界大戦が終わりを迎えた直後、自分が生まれたところ、ふるさとが急にロシアに占拠されて住めなくなつたその時、北方領土に住んでいた人々は、どんな気持ちで島から出たのでしょうか。決して、出て行きたいと自分から思つた人はいなかつたと思います。

今、日本の人々は、北方領土の返還を求めている。でも、六十年くらい住んできたロシアの人々がいる。私は、この北方領土問題について知ったとき、日本もロシアも平等に納得いくようにこの問題を解決するには、どうしたらいいのか考えてみました。でも、全然答えが生まれませんでした。ただ、日本人である私としたら、日本の領土なので、早く返してほしいということだけでした。

一方で、第二次世界大戦後、なぜ、ロシアは北方領土を占拠したのかという疑問が湧いてきて、その理由が一番知りたいと思いました。確かに、日本は戦争でロシア側に負

けました。だから、勝つたということで日本の領土を占拠するということ、それを六十年以上も占拠したままということなのでしょう。私は、六十数年前、もともと住んでいた島の人々が、この六十年間を毎日どんな気持ちで過ごしてきたのだろうかと思いました。

「ボンボン船に乗って帰りたい」という歌があります。その歌詞、その言葉一言ひとことが、北方領土をふるさととする人々の今までの気持ちそのものだと思います。帰りたい、でも帰れない、そんな気持ちが入められた歌だという印象が残っています。この歌を広めたいと思います。そして、ビザなし交流がされていることを知って、この交流や歌を通して、北方領土問題が少しでも解決に向かつていけばいいと思っていました。

一九九三年の十月に合意された東京宣言。そして、六十数年前のあの戦争から、やっとロシアと日本の関係を正常化しようと動き出している今、私は、もう少しで解決しそうな気がします。

私は、中学一年生になって初めて北方領土問題について詳しく知りました。京都に住んでいるので、あまり関係のない問題だと思っていました。しかし、この問題について詳しく知っていくことで、同じ日本での出来事だということ、一人だけが解決しようとしても解決しないということを知りました。だからこれから、北方領土問題という問題があつて、まだ解決されていないということを忘れずに生活していきたいと思えます。私が大人になったときには、この北方領土問題は解決し、日本とロシアの関係が正常化させられるようにしていきたいと思えます。

佳作

北方領土問題について

綾部市立豊里中学校
二年 平方 沙耶

今まで北方領土問題と聞くと、「大変だな、でも自分には関係ない。」と思っていました。でも今回、北方領土について詳しく学習して、この問題は日本にとって本当に大きな問題の一つであることを実感しました。

日本固有の領土でありながら、昭和二十年にソ連に占領され、現在もロシアに引き続き占領されている。私が北方領土について知っていることはこれぐらいでした。でも、戦前四島に住んでいて、強制的に引き揚げさせられた元島民の人たちの思い、ロシアと日本の交流などを知り、少しでも早く解決するべきだと思いました。

今回の学習で一番印象に残ったのは、元島民の人たちの思いです。現在、北方領土は、ロシアに領有され、元島民の人たちの故郷は「外国」のようになっています。自分が生まれ育った島から強制的に引き揚げさせられ、その上、大事な故郷が外国のようになって信じていられませんが、故郷へ帰りたいと思っても、日本を出なければならぬ、そして、故郷の地へ帰ったとしても、そこに住んでいないのは、家族でも懐かしい友人でもなく、ロシアの人だなんて、絶対に悲しいし、辛いことです。でも、だからと言

って、ロシアの人たちを北方領土から追い出して日本が占領するという形で北方領土を日本の領土とするのは、同じことを繰り返しているだけで、何の意味もありません。現在、北方領土に住んでいるロシアの人たちと島民であった人たちの交流も深まっており、お互いに相手の国の考え方や文化を理解し合っているのだから、両国の人が仲良く住む、それが一番良いのではないかと思います。そして、ロシアにとってそうであるように、日本にとっても北方領土が自分の国であると言えるようになれば良いと思います。

水産資源、森林資源、鉱産資源を確保するためにも、北方領土は、日本にとって必要不可欠です。そして、何より北方領土の四島が故郷であるという人々にとって、北方領土問題は一刻も早く解決してほしい問題だと思います。

きっとこの問題は、私たちが大人になり、社会へ出るようになってからも重要視され続けていく問題だと思います。でもそんな時、自分には関係ない、その一言で終わらせてはいけません。どうすればいいのかを考えようとしてみたり、自分にできることはないかを探してみたりすることが、少しでもこの問題の早期解決につながるのではないかと考えます。

佳作

問題を知って

宮津市立養老中学校
三年 関 彩花

「北方領土問題」。こう聞くと経済水域の奪い合いかと思っていたが、そうではないことを知った。この作文を書くことをきっかけに、私はこの問題について調べてみた。調べていくうちにあるものに目が留まった。それは、択捉島出身の人が書いた体験記録だった。その文章を読むと、とても悲惨な内容ばかりだった。そこには、耐えられないような事実が書かれていた。戦争が終わり、ほっとする間もなくソ連軍の侵攻。強制送還の命令。戦争が終わったというのに、こんなに苦しい思いをした人がいたということを知った。そして、今もふるさとに住むことができず、悲しい思いをしている人がいるということも。

この事実を知り、より早く北方領土の返還をしてほしいと思った。しかし、そう簡単に返還されるわけではない。このことは、戦争が終わって六十四年というのにまだ解決していないという事実が物語っている。

では、なぜ今、こんな問題があるのだろうか。北方領土の歴史を振り返ってみると、一六四四年に幕府が作成した地図にも、既に「くなしり」「えとろほ」などの島の名前が書かれていたそうだ。しかも、一六五五年の条約調印に

より、北方領土は日本の領土として確定した。それならば、返還してもらわなければならない。

しかし、社会の授業で聞いた話によると、日本とソ連の間にできた条約をソ連が破り、他の国と一緒に日本に攻め入ってきたらしい。それにより、日本が戦争に負け、北方領土に侵攻されたそうだ。

この話を聞いた私は、ソ連が悪いと思っていた。しかし、よく考えてみると、そうでないような気もしてきた。ソ連も自分の国を守ろうとして、強い国の方と一緒に戦ったのではないだろうか。これが日本の立場であっても、同じことをしていたのではないかという疑問が湧いてきた。

しかし、大事なことを忘れてはならない。これからどうすべきかということだ。まず、両国の国民がこの問題について正しく知るべきだ。私も実際に経済水域の奪い合いではないのかと勘違いしていたのだから。私だけでなく、他の人も勘違いしているかもしれない。また、この問題を知らないという人も多くいるのではないだろうか。だから、新聞やテレビを通してもっと国民に知ってもらわなければならない。

この問題が未だに解決されていないのは、この国全体がこの問題に向き合っていないからなのではないかと思う。国を動かすような人々だけで考えるのはおかしい。北方領土がこの国の領土であるのなら、この国の問題として、国民が正しく知り、意見を交換し合うべきだ。そうすれば、きっと解決策を得ることができるだろう。

発 行

平成22年（2010年）2月6日

北方領土返還要求京都府民会議

〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町30-2

京都労働者総合会館8階 連合京都内

京都府北方領土教育者会議

〒600-8023 京都市下京区河原町仏光寺西入

京都市総合教育センター内